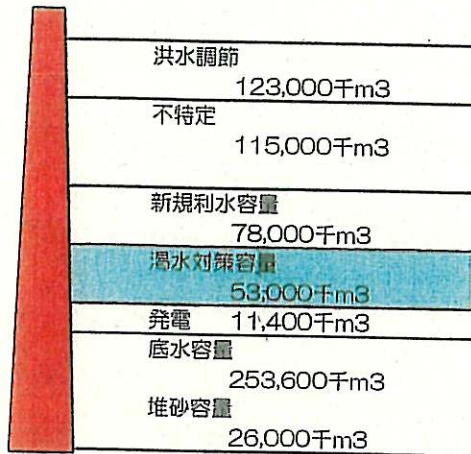
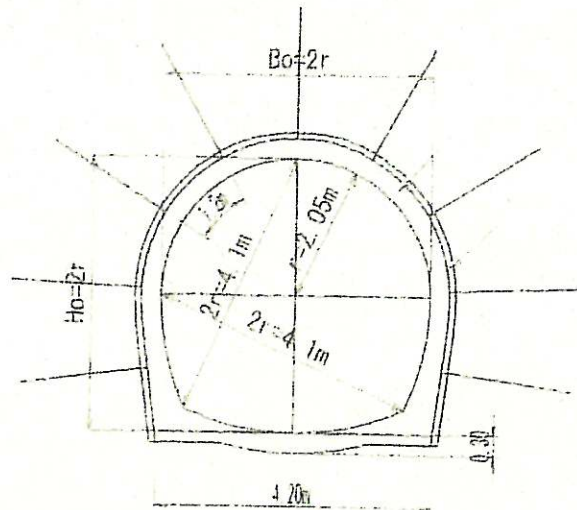


徳山ダムと導水ルート

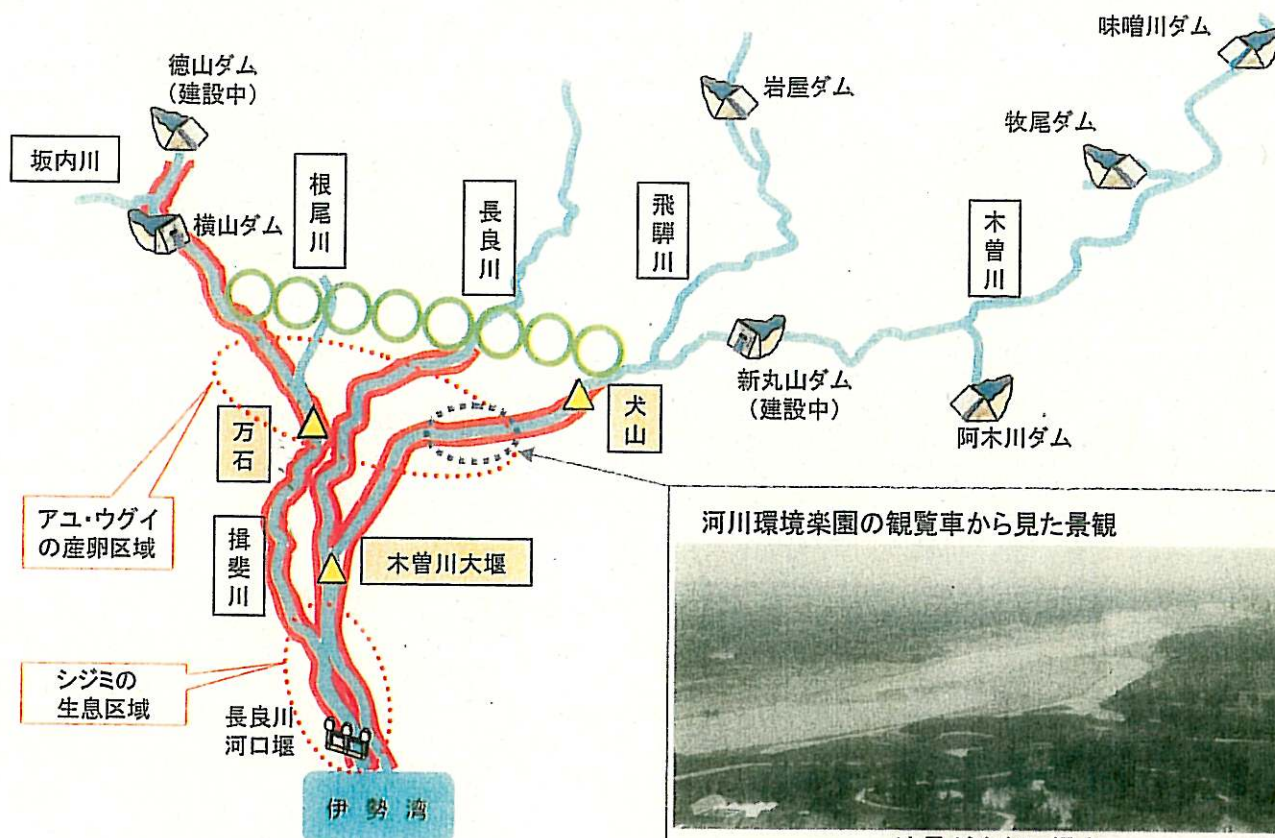
徳山ダム容量配分図



連絡導水路標準断面図



導水による流況改善効果



— : 流況改善区間

水深が小さい場合のイメージ



流量の少ない
場合ダムから
補給

必要水深が確保出来た場合のイメージ



河川環境楽園の観覧車から見た景観



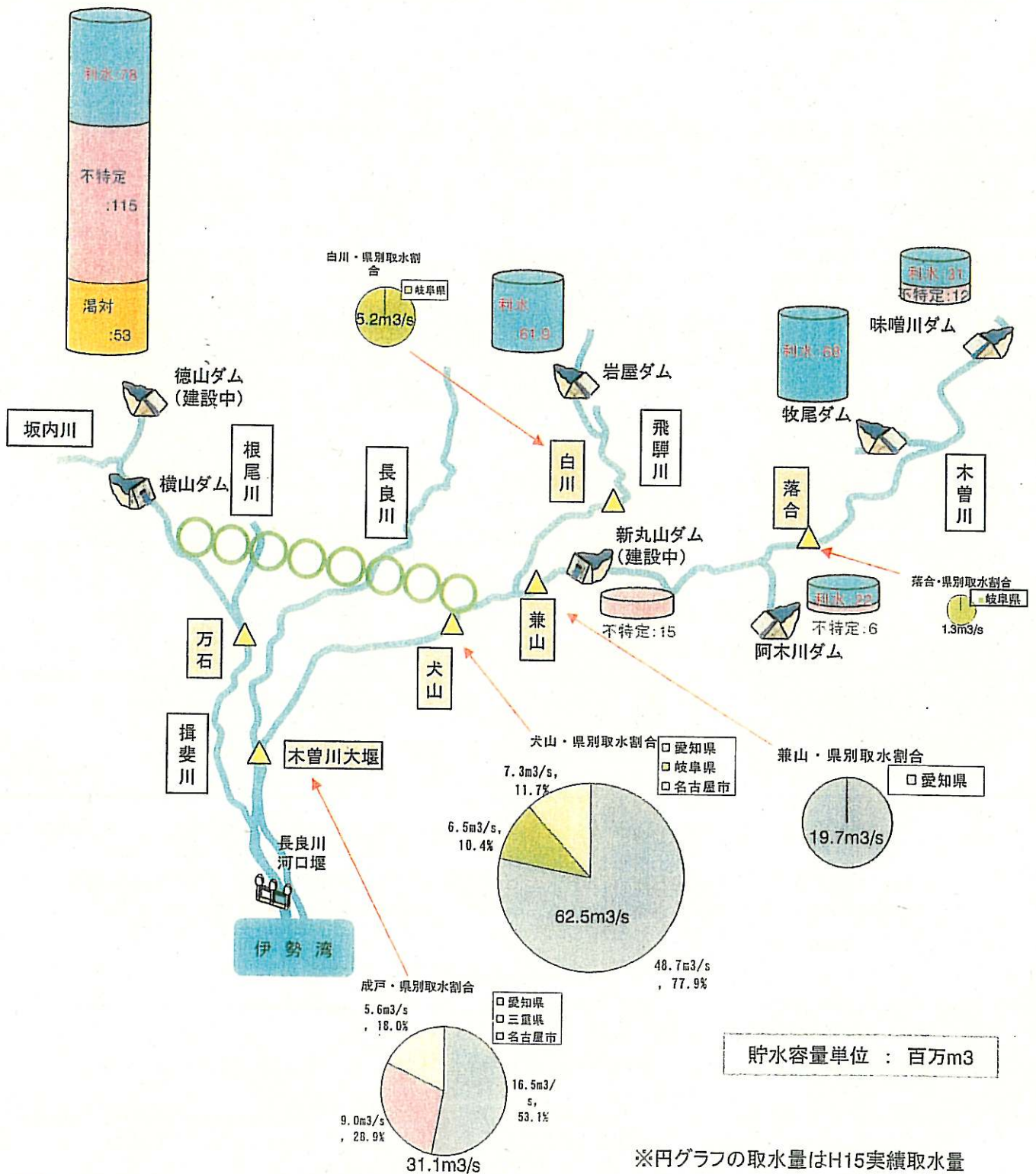
流量が少ない場合



流量が豊富な場合

- 流水の正常な機能を維持するための流量については、動植物の生息・生育、漁業、観光(景観)、流水の清潔の保持、舟運、河川管理施設の保全等を考慮して定めることとなっている。
- 木曽川中流部42～45km付近はアユやウグイ等の産卵区域であり、動植物の生息・生育や漁業資源確保のためにある程度の流量が必要であり、また、同付近にある国営木曽三川公園138タワーパークや河川環境楽園には年間700万人もの来園者があり、河川の景観を楽しんでいる。
- このため、異常渇水対策のための導水ルートは、木曽川中流部より下流の広範囲にわたって河川環境の保全等のための補給を考慮し、犬山頭首工上流へ注水する。

木曽川水系への依存量とダム貯水容量



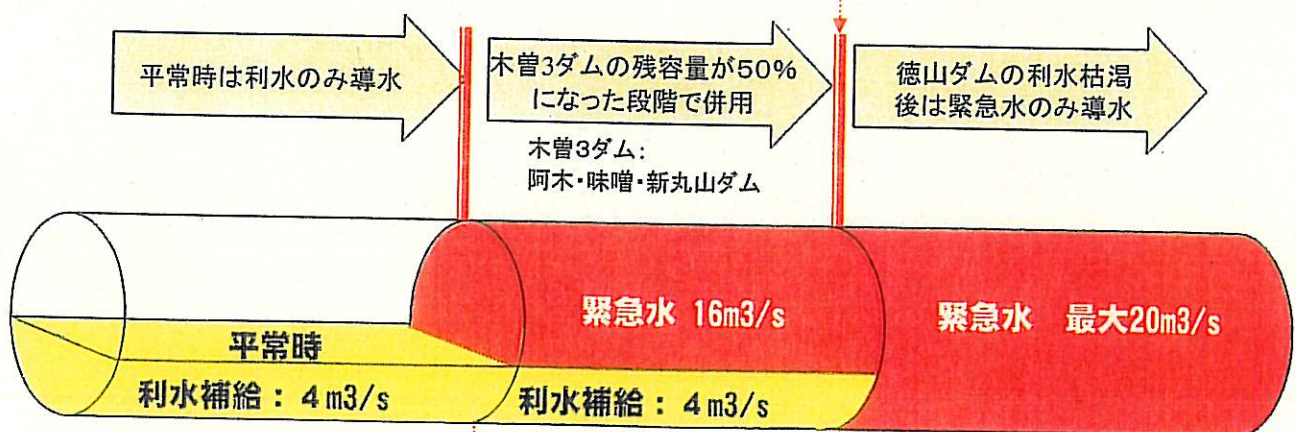
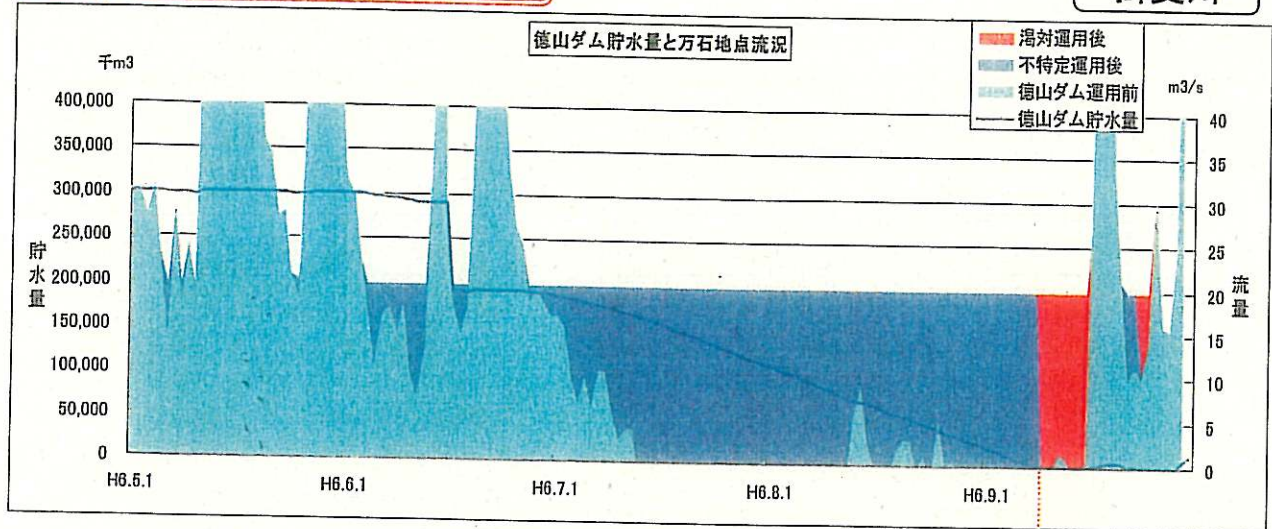
○徳山ダムの利水・不特定・渴対容量は2億4600万m³、また、木曽5ダムの利水・不特定容量の合計は2億1600万m³である。

○犬山頭首工(堰水域を含む)より下流で取水される量は、木曽川全体からの取水量の約80%を占める。

導水路の運用 (平成6年流況での試算)

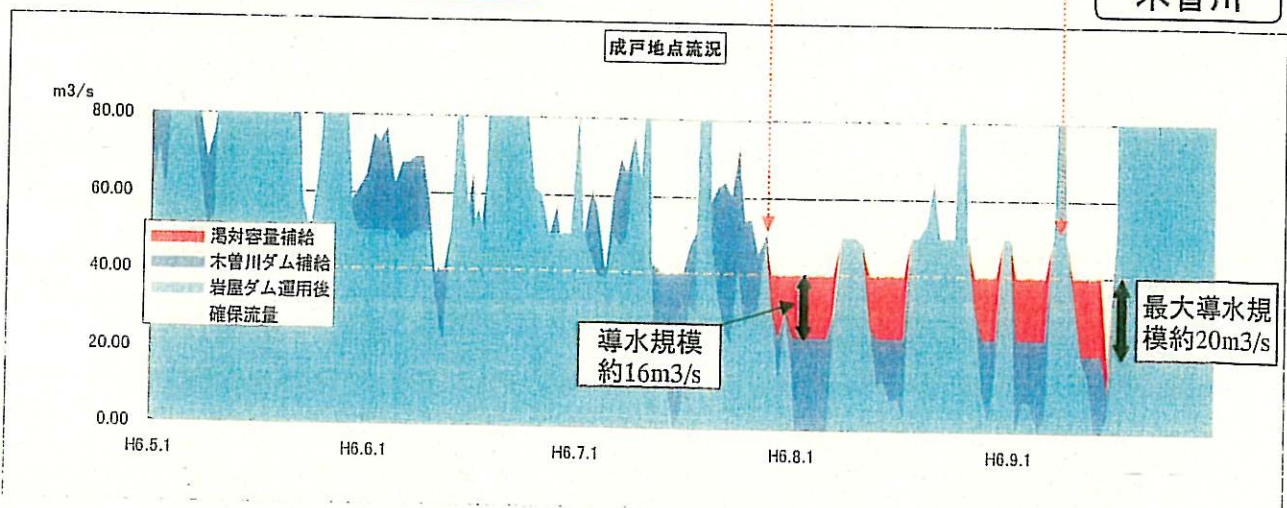
渇水対策補給量 約13,000千 m^3

揖斐川



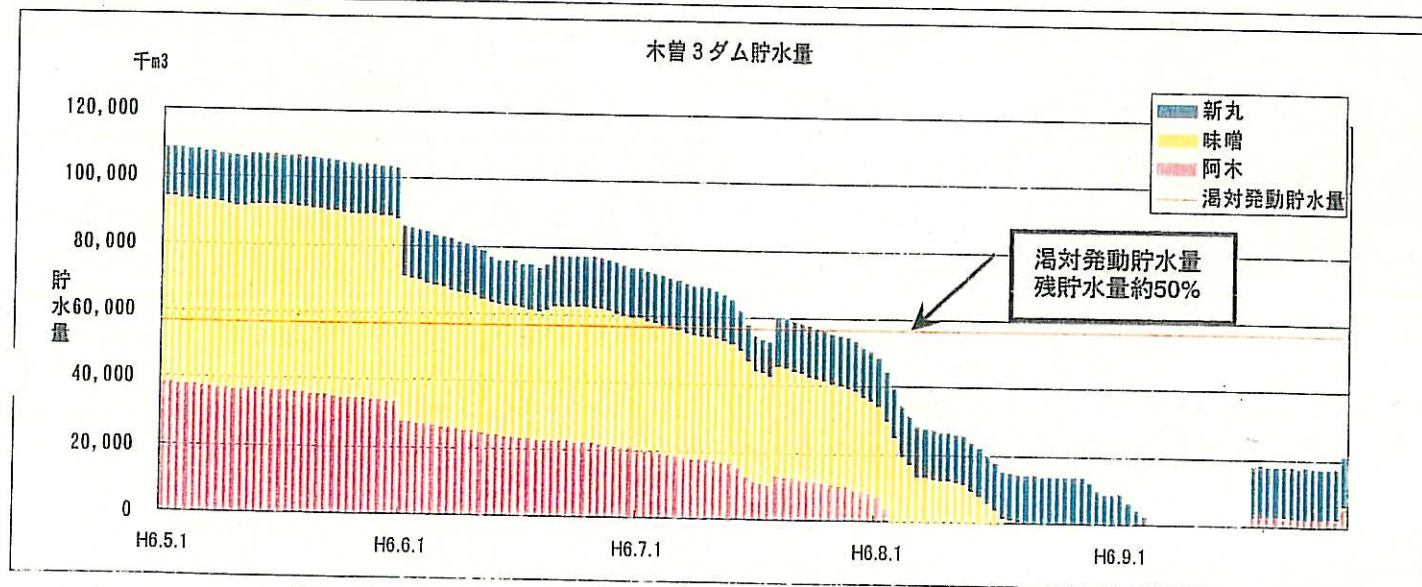
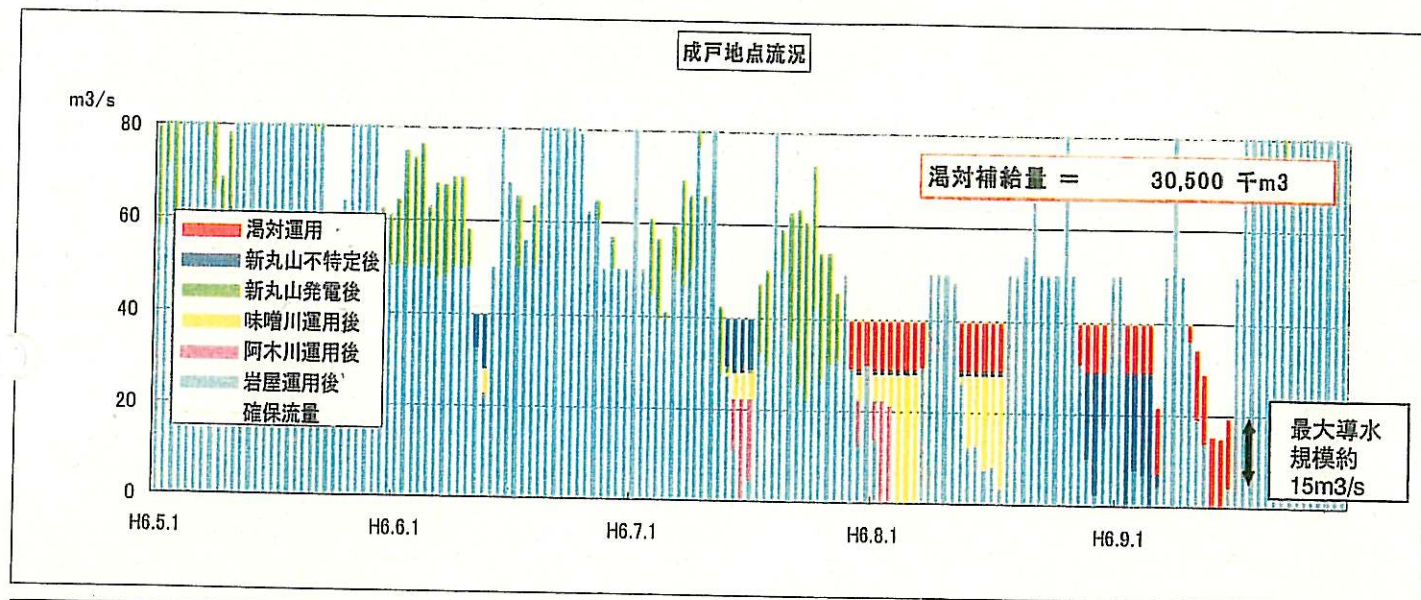
渇水対策補給量 約40,000千 m^3

木曽川

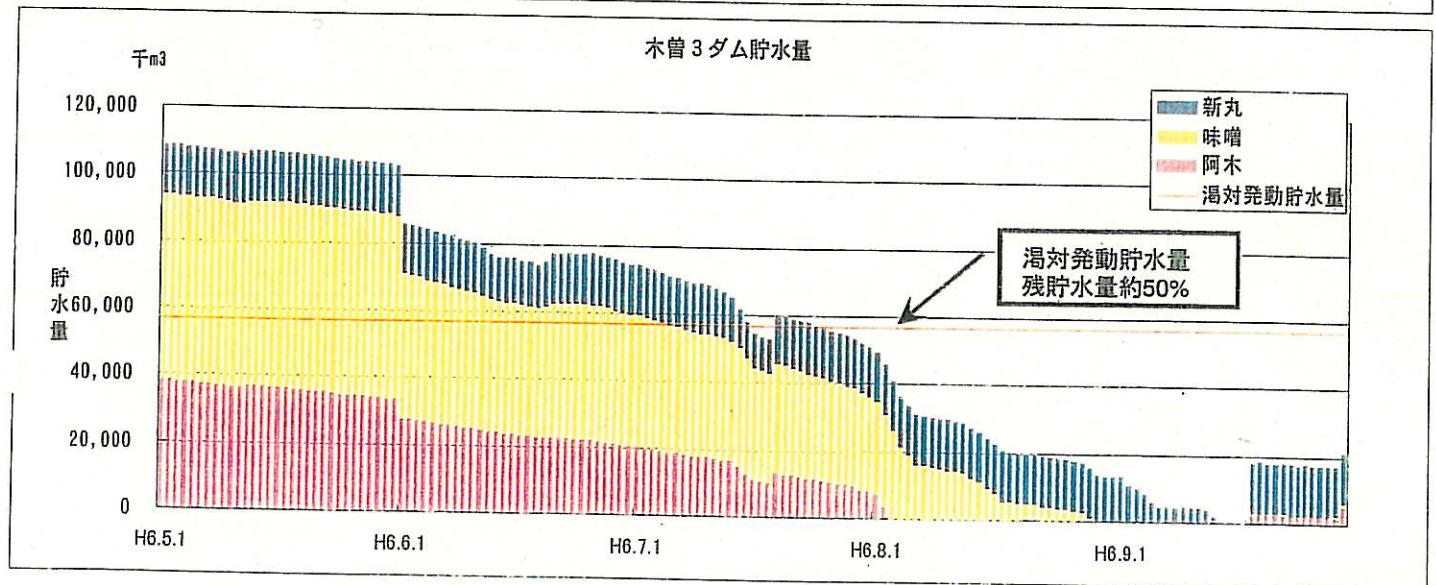
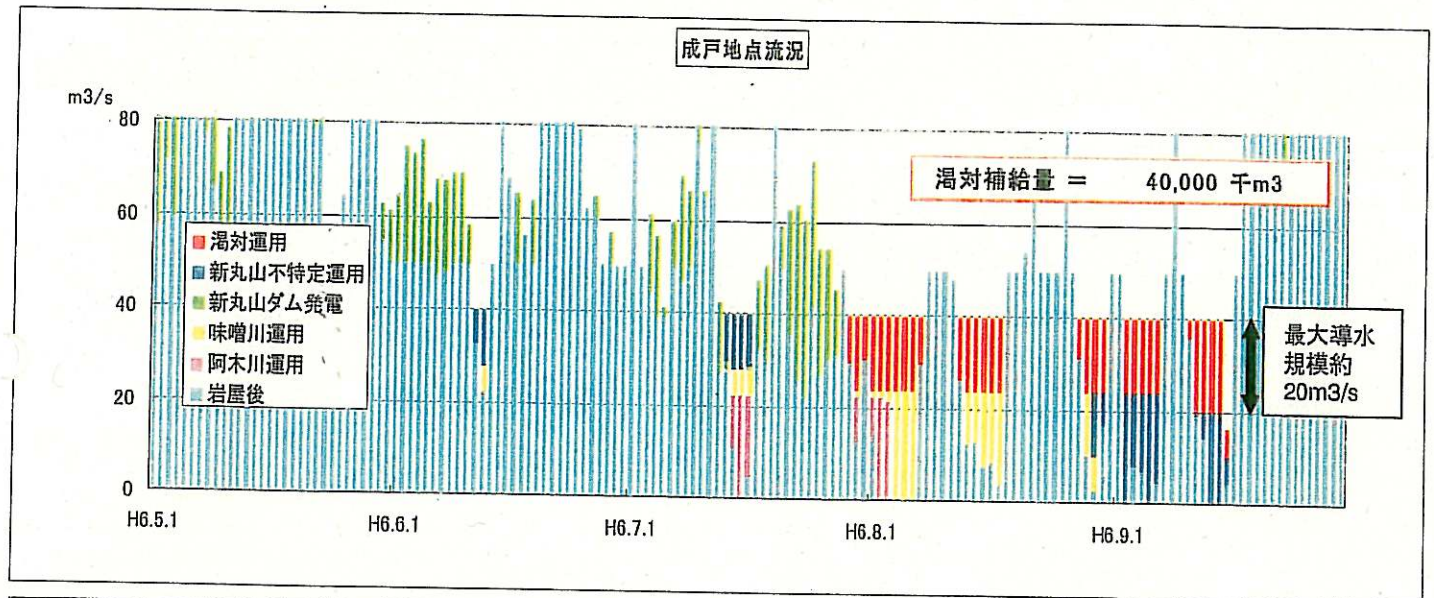


・導水規模を20 m^3/s とすることにより、木曽3ダムと渇水対策容量とがバランスよく木曽川に補給されるとともに、徳山ダムに確保した渇水対策容量を十分に活用することが可能である。

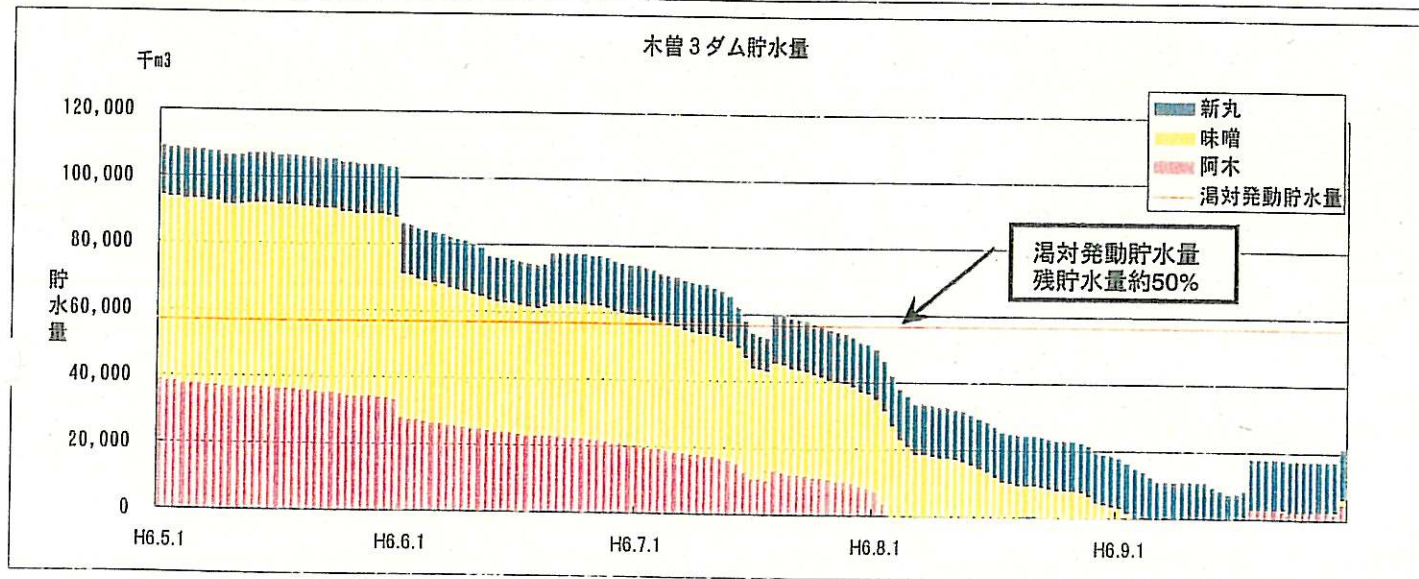
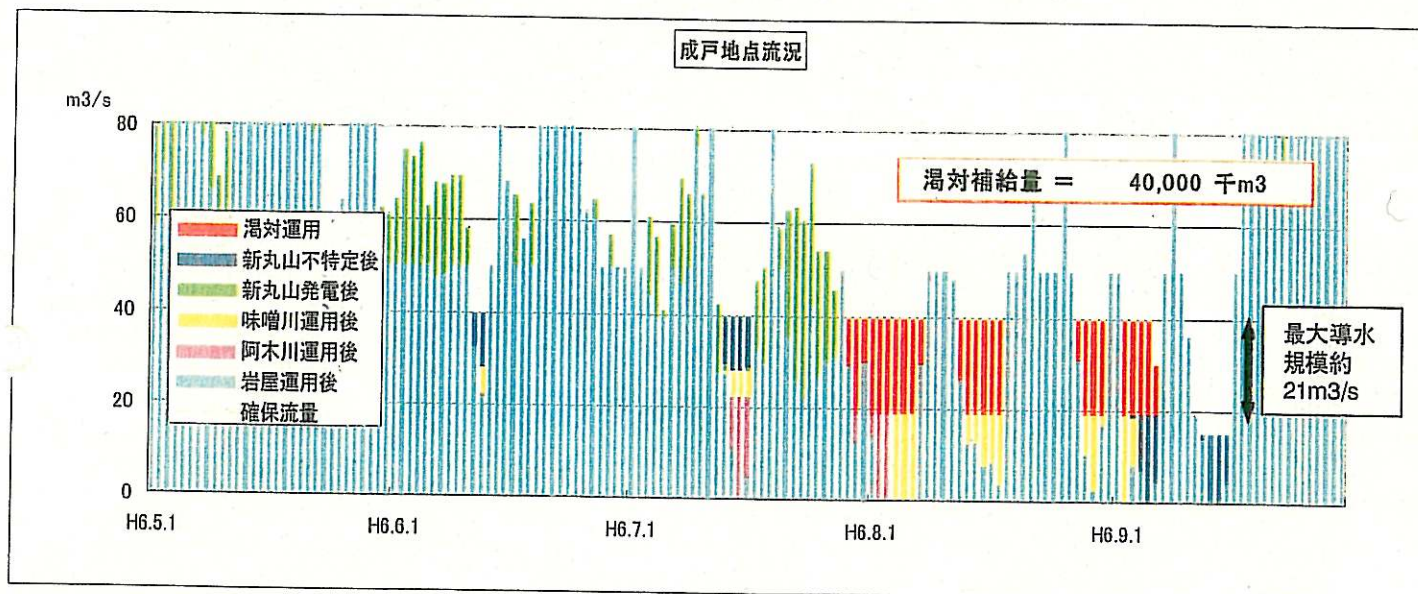
シミュレーション結果(case1:15m3/s導水)



シミュレーション結果(case2: 20m³/s導水)

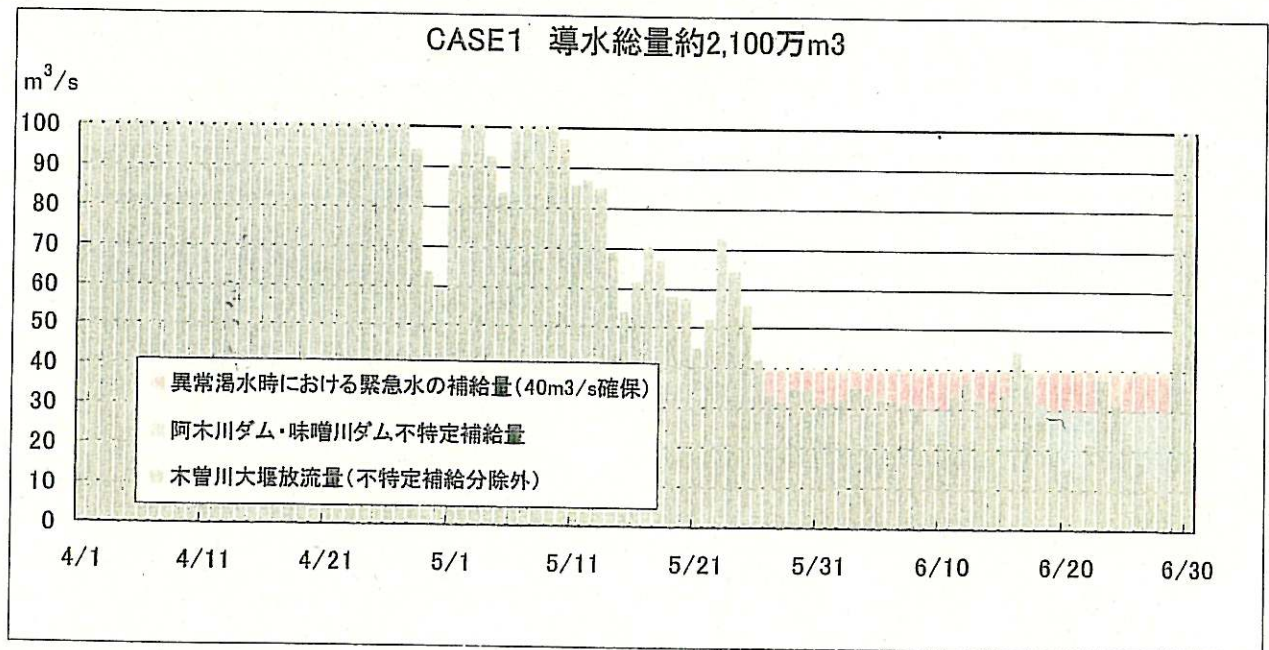


シミュレーション結果(case3: 25m³/s導水)

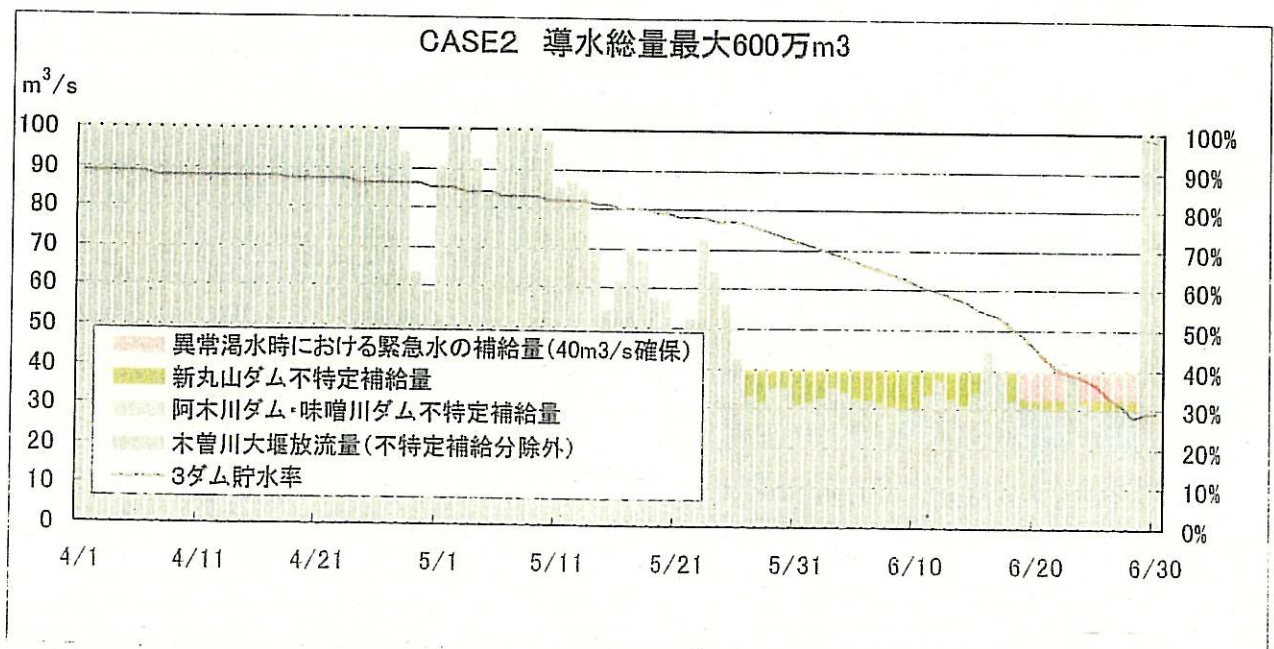


H17 渇水での導水効果

CASE1 実績流況に対する効果



CASE2 新丸後に対する効果



平成17年度渇水における調査状況と今後の予定について

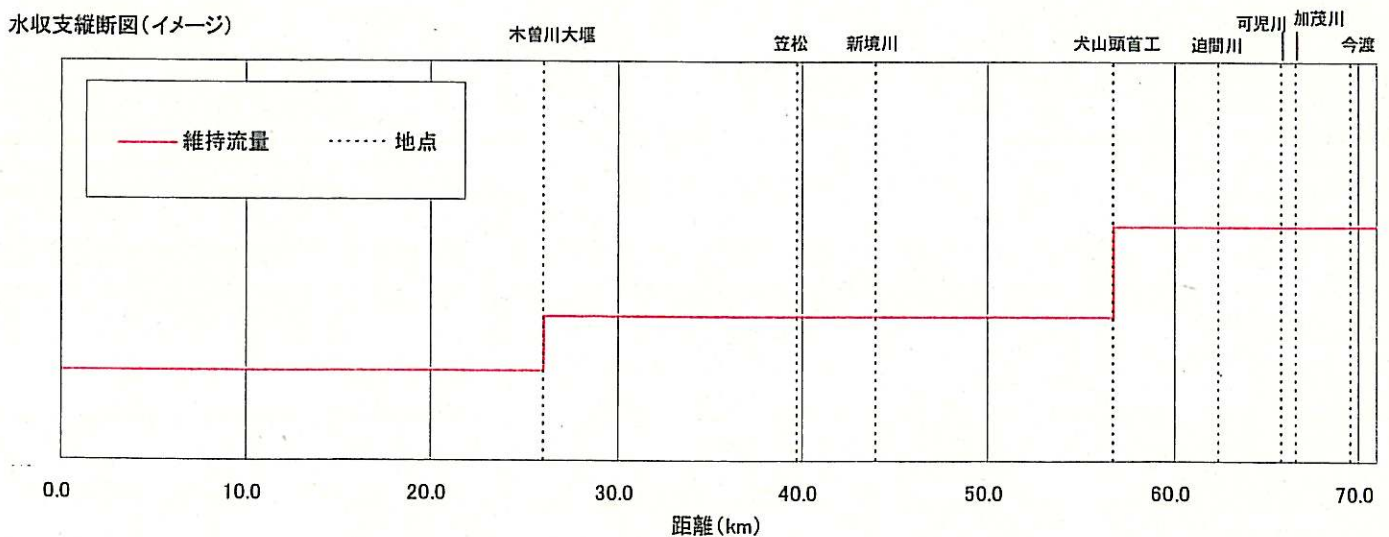
H17.7.14 木曽川上流河川事務所

1. 平成17年度渇水における調査状況

- ①魚類の産卵区域として確認されている木曽川中流部において、流量観測を2回実施した。
- ②観測の結果、木曽川中流部の流量は概ね $65\text{m}^3/\text{s}$ 弱（6/7： $64.16\text{m}^3/\text{s}$ 、6/24： $62.86\text{m}^3/\text{s}$ ）であった。
- ③このときの水深をH-Q式から推算すると約25cmで、アユ・ウグイ等の産卵に必要な水深約30cmに対しては不足となった。

2. 今後の調査予定

今後、秋口に向けて、下図のような水収支縦断図を作成し、必要流量を定めることとしている。



図・水収支縦断図(イメージ)